

クラシノコアゲ応援団街頭行動 第22弾 (8/2)

人口減少社会を迎え、経済成長の推進・拡大・維持性が課題 皆が意欲を持って働き続け、生活できる環境づくりも重要

～西日本豪雨災害支援カンパの呼びかけに、16,171円が寄せられた～

連合福島の「クラシノソコアゲ応援団街頭行動」第22弾は8月2日(木)に、福島駅東・西口2カ所において展開し、市民の皆さんに応援団としての取り組みを訴えた。

冒頭、街頭行動の応援団長である連合福島今野泰会長は、西日本豪雨災害被災者へお見舞い・お悔やみを述べるとともに、合せて東日本大震災時の連合ボランティアの皆さんから元気と勇気を頂いた県民・市民皆様の真心を、募金を通じて被災地に届けたいと、支援カンパの協力を呼びかけ、16,171円の心温まる浄財が寄せられた。連合福島は引き続き支援カンパの取り組みを行い、本部を通じて被災地に届ける。

引き続き今野会長は「急激な少子高齢化・人口減少社会をむかえ、それに比例し生産年齢人口が著しく減少する中、経済成長の推進、拡大そして持続性が課題だ。加えて社会保障費の抑制と改善・解決策は、国の課題であり働く者の課題として目の前に突き付けられている。女性や高齢者が意欲を持って働き続けられる、生活できる環境整備、また、2,000万人を超える非正規労働者の処遇改善を求める。是非、労働相談ダイヤルの活用をお願いしたい」、「閉会した先の通常国会では、働き方改革関連法案は労働時間の上限規制をする一方、労働時間規制が無くなる『高度プロフェッショナル制度(高プロ)』が加えられた。企業と働く方の力関係からこの制度を拒否できるのは皆無であり、詳細は今後省令で決められるが、この状況を連合は何としても阻止したい。今、労働組合の重要性・必要性は増しており、連合福島、労働組合へのご理解とご協力をお願いしたい」と訴えた。

【福島駅東口】

【福島駅西口】



左から東口で訴える鈴木茂副事務局長、佐久間通泉労協事務局長、遠藤和也副会長、紺野長人社民党県連代表、西口で訴える加藤光一事務局長、佐藤裕副会長、鈴木克明副会長



「クラシノソコアゲ応援団街頭行動」第22弾 福島駅東口と西口で訴える連合福島役員の皆さん